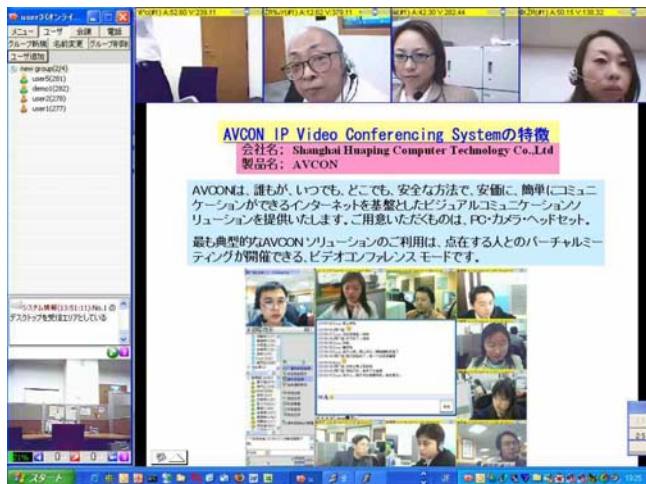


ニュース項目

■ ユニアデックス、Web 会議システムを 10 月 1 日より発売



ビジュアルコミュニケーション・システム

ユニアデックス株式会社(東京都江東区)は、「ビジュアルコミュニケーション・システム」を発表。10月1日より販売を開始する。

32kbps の低速な回線環境でもFM放送並の高音質通信、また 64kbps で、320x240 ピクセル、最高 704x576 ピクセルの高画質通信が可能な Web 会議システム。ホワイトボード、ファイル転送、デスクトップ/アプリケーション共有、スクリーン共有などのデータ連携機能を利用可能。

システム構成としては、サーバーを社内 LAN もしくはインターネットを介して分散型で接続することによって、一部の機能の分散を図り、大きな拡張性、高い障害対応性を実現し、最大構成では同時接続ユーザー数に制限がない。

サーバー環境を構築した後は、ネットワークに接続されたクライアントパソコンからブラウザを使用してサーバーのクライアントソフトをダウンロードし、USB ポートに接続したカメラとヘッドセット/マイクのセッティングだけですぐに使用できる。その他会議用集音マイク、USB カメラ、PTZ(パン、チルト、ズーム)カメラの接続と遠隔制御が行える。

またビジュアルコミュニケーション・システムでは、次の2つのモードがある。どちらのモードでもデータ機能と連携が可能。(1)1:1または1:Nで簡単な打ち合わせや会議ができ、ユーザーのプレゼンスがわかるビデオチャットモード、(2)複数地点のPCを接続した本格的な多地点会議ができる会議モード。

ビジュアルコミュニケーション・システムの特長は、(1)エコーキャンセラー内蔵で 32kbps の回線速度での FM 放送並の音質が可能。音声は優先処理されているため途切れない。(2)最大解像度が 704x576 ピクセルという従来比4倍以上の解像度とチューニングされたエンコーダーによる高画質。PHS などの 64kbps でも 320x240 ピクセルの映像配信が可能。画像処理は、差分のみの送受のためパフォーマンスの良い通信を実現。(3)階層構造によるサーバーの分散配置で、負荷分散、障害対策、中継線のトラフィックの大幅削減、パフォーマンスや信頼性の向上と経済的な通信コスト。(4)共有した資料に書き込みなどを行いディスカッションができるデータコラボレーション機能。(5)相手PCの遠隔制御が可能で、トラブルシューティング、遠隔保守、教育などに活用。(6)映像、音声、データの全ての送受に米国政府標準の暗号化方式 DES をサポート。(7)クライアントPCでは、HTTP プロキシ、ファイアーウォール、NAT などでガードされたイントラネットからでも通信が可能。

今回のビジュアルコミュニケーション・システムは、中国上海のベンチャー企業 Shanghai Huaping Computer Technology Co., Ltd.(SHCT)が独自開発した。SHCT は、2003 年 10 月に上海で設立。資本金は日本円で 8500 万円。創業者チームが10数年間画像、音声の圧縮と転送技術を研究し AVCON を開発した。中国の Web 会議システムでは No.1 の実績をもっている。中国では、AVCON と呼ばれる製品名。中国国内シェアが 50%以上。中国政府部門で強く、最近では、案件規模が2億円を超えるシステムを中国大手保険

会社から受注している。

今回ユニアデックスでは、同システムの日本国内独占販売権を得て、日本語化など日本向け改良を行い製品化した。

今回販売開始のビジュアルコミュニケーション・システムの価格は、同時接続クライアント数が4の場合の最小構成で、83万4千円から。また同時接続数として4～2,048までのライセンスがあり、32同時接続数の構成の場合は、611万8千円。

ユニアデックスでは、このシステムの販売開始によって既実績のある「ワイヤレスIP電話ソリューション FOMA/無線LAN デュアル端末対応」への組み込みを含め今後IPコミュニケーションソリューションの強化を図る。

ユニアデックスは、1997年設立の、日本ユニシスグループのネットワーク&サポートサービスの専門会社。コンピュータネットワークの設計、構築、導入、運用管理、保守、ソフトウェア導入・保守、さらには、設計工事、周辺機器製造までを一貫して行う。ISO9001取得。特定ベンダーにとらわれない最適なハードとソフトの調達設計が可能。国内200カ所のサービス拠点と100カ国以上のグローバルサービス網を有し、24時間365日のサービスを提要。ITマネジメントサービス事業、コンサルティング、セキュリティ監視、IT資産管理サービスなどに注力。また、FOMA/無線LAN デュアル端末利用ソリューションをはじめとするIPテレフォニー、無線LAN、ストレージネットワーク、グローバルビジネス、Linuxなどの新規事業も積極的に推進している。

■日本アビオニクス、パソコン遠隔会議ソフトを内蔵したプロジェクター発表

日本アビオニクス株式会社(東京都港区)は、書画カメラ付きプロジェクターに遠隔会議ソフトを内蔵した遠隔会議装置「CollaboMate iP(コラボメイトアイピー)」の販売を10月20日開始する。

CollaboMate iPは、書画カメラ内蔵タイプ「インテリジェントプロジェクタ」の最上位機種「iP-750」に、遠隔会議ソフト

を内蔵している。「同社が販売している遠隔会議ソフト CollaboMate と iP-750 を合体させた製品が今回の CollaboMate iP。当社の遠隔会議システムとしては集大成的な製品。」(日本アビオニクス 電子装置営業本部 プロモーショングループ 課長 富岡 博氏)

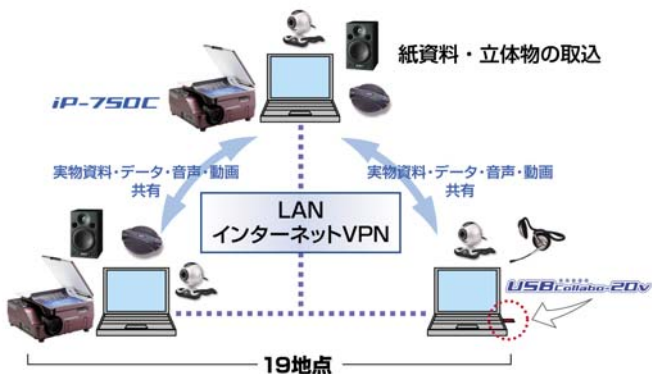


CollaboMate iP(中央のプロジェクター機)

CollaboMate iPは、CollaboMate iPとパソコンをUSBケーブルで接続するだけで会議ソフトが自動起動。インターフェイスはタッチパネル感覚の操作。タブレットなどと組み合わせることによって会議をスムーズに進めることができる。

CollaboMate iPは、遠隔会議ソフト CollaboMate の機能を内蔵しているため、紙や実物などの資料を MCU サーバー(多地点接続装置)なしで最大20地点まで同時接続ができる。書画カメラは、200万画素(カラーCCDカメラ)の能力を持ち、「取り込んだ紙の飼料や立体物など、従来のテレビ会議では取り扱いの難しかった情報を、簡単な操作でかつ鮮明に遠隔地と共有することができる。」(日本アビオニクス)

■ ヴォルフビジョン、シーリングビジュアライザーの新製品を発売



CollaboMate iP 構成例

CollaboMate iP の特長としては、以下の通り。(1) 資料送受信(書画データ・JPEG 画像・パワーポイントファイルなど)、送りたい紙書類などを書画カメラのガラス面に置き、ボタンを押すだけで共有できる、(2) 20地点同時接続、(3) MPEG-4 による音声・動画の配信、(4) 参加者全員のポインタ表示、(5) 資料画像の拡大・回転・スクロール機能、(6) 資料画像へのペン書き、(7) ホワイトボード、(8) 資料画像の議事録保存。

また、通常のインテリジェントプロジェクタとしての機能を持ち、単体使用でプロジェクターとしても利用できる。プロジェクターの明るさは、4,500ルーメン。

CollaboMate iP は、製造業における遠隔地との開発・技術部門でのデザインレビュー、製造部門での品質会議、生産会議など実務型の会議、あるいは、社内での一般的な会議、教育分野での遠隔講義・研修など幅広いミーティング用途に活用できる。

CollaboMate iP の標準価格は、128 万円(オプション含まず、税別)。390(W)x380(D)x190(H)mm(突起部含まず、カバー含む)。消費電力 450W。重量は約 8.5kg。



シーリングビジュアライザー(天井などに取り付ける)

株式会社ヴォルフビジョン(東京都中野区)は、9月にシーリングビジュアライザーの新製品を2機種発売。3CCD プログレッシブスキャンカメラを搭載の「VZ-C32」、1CCD プログレッシブスキャンカメラを搭載の「VZ-C12」。

旧モデル(VZ-C11 及び VZ-C30)との違いは、(1) 64倍ズーム光学16倍、デジタル4倍の新しいレンズを搭載し、ズーム範囲が非常に広がったため、シーリングビジュアライザーの設置高度を自由に変えられる。旧モデルより大型の被写体を撮影ができる。ズームイン倍率も向上。(2) ネイティブ 4:3 プログレッシブスキャンの画像は、16:9 または、16:10 ワイドスクリーン / HDTV フォーマット (HDTV 720p 及び 1080p-50/60Hz、WXGA、WSXGA+) でも出力可能。(3) 出力モードを変更すると、同期照明範囲の縦横比は 4:3 または 16:9 に変わる、(4) ワンプッシュオートフォーカス。通常は被写体深度が非常に大きいので、フォーカスを調整する必要はないが、特殊な被写体を撮影する場合には、ワンプッシュオートフォーカスを使用すると効果的。(5) 照明の明るさがアップした。

また初代シーリングビジュアライザー「VZ-C10」との違いは、まず信号処理が向上し、画質がさらに改善された。新製品が小型化し、接続端子が本体上部に設置された点。また、30 フレーム・毎秒に対応し、USB 2.0 ポート、イーサネットポートを内蔵。RS232 のシリアルポート、USB、イーサネットポート経由にてファームウェアアップデートが可能。その他では、4倍デ

デジタルズーム、内蔵デジタルスケーラーに対応。

■ポリコムジャパン、PCコールキット発表



PC コールキット(ケーブル部分)

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、「PC コールキット」を発表。音声会議システムの「SoundStation2」と、Skype、MSN、Google、Yahoo!などのインターネット電話、ソフトフォンサービス、あるいは「Polycom PVX」をインストールしたパソコンと、PCコールキットで接続することによって、ハンズフリー通話を可能とする製品。

PC コールキットは、SoundStation2 を高音質のスピーカーとマイクとして利用するために、SoundStation2 のアプリケーションポートとパソコンを接続するケーブル。パソコン上のインターネット電話クライアント、ソフトフォン、Polycom PVX を使って相手を呼び出すだけで利用でき、パソコンにSoundStation2 用のソフトウェアをインストールする必要はない。標準の音声入力・出力端子を持つ Windows、Mac、Linux を搭載したパソコンで利用可能。

PC コールキットは、日本市場向けでは10月中に発売予定。10 月以降に出荷される SoundStation2 及び SoundStation2 EX に対応。

■日立ソフトウェアエンジニアリング、電子ボードにラインナップ追加。累計3万台で販売

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社(東京都品川

区)は、インタラクティブ電子ボード「DigitalBoard(デジタルボード)/StarBoard(海外向けブランド名称)」シリーズとして、現行製品の「T-15XL」に加え 17 月液晶タブレットタイプ「T-17SXL」を開発。

T-15XL と同様の電子ペンによる操作、ファンクションボタンを8つ配置、デジタルボードソフトウェアと連携してそれぞれのボタンに各種機能を設定することができる。

出力には、信号端子(RGB 端子)を持つ。液晶プロジェクターに投影した画面に対してタブレット機能で操作ができる。プレゼンテーション等の用途に適する。

既存のホワイトボードや黒板に取り付けられる、持ち運びができるフロントポータブルタイプ「F-Portable」を日本で 9 月より出荷開始。F-Portable は、磁石による設置が可能のため、すでにホワイトボードや黒板を設置している教室や会議室等にて板面に取り付けるだけで利用できる。設置工事が不要なく、プロジェクターの投影位置に合わせて自由に取り付けられ、付属の電子ペンで画面上の電子コンテンツの操作を行える。重さ 500g(ケーブル込み)。

日本、欧米、アジアの世界各国で出荷を開始。同社では、DigitalBoard 累計3万台以上販売してきた。

■アルカディン・ジャパン、日本で電話会議サービスを開始

2001 年フランスに誕生した電話会議サービスプロバイダーアルカディン(Arkadin)社が今年 1 月に日本に現地法人アルカディン・ジャパン株式会社(東京都港区)を設立、5 月にサービス開始した。資本金は 6000 万円。全世界で 250 名の会社で、日本法人には、営業とカスタマーサポートで 18 名の陣容で現在対応している。

アルカディン・ジャパンでは、3つのサービスを提供している。

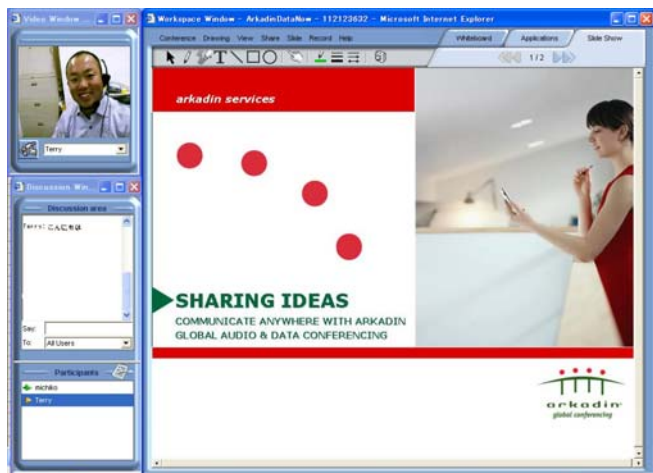
(1)Arkadin Anytime:予約なしのセルフ会議サービス。24 時間 365 日いつでも会議をすることができる。最大 50 拠点までの会議であれば予約なしで利用できる。それ以上たとえば 200 拠点から 1000 拠点での大規模の電話会議では事前

の予約で対応が可能。また、会議は録音が無料で提供されている。会議の議事録あるいは参加出来なかった人向けの録音としても利用できる。会議は6件まで録音でき順次新しいものから上書きしていく。

Web インターフェイスを使った会議管理で、会議状況や参加者の確認、参加予定者に一齐にダイヤルアウト(参加者を呼び出す)する、会議の録音、サブミーティング、ホールド、ミュート、アドレス帳などの機能がある。

(2) Arkadin Event:オペレータ付きイベント型電話会議サービス。オペレータが会議の進行役を行い、電話での会議を円滑にわかりやすく進める。社外との会議や新商品説明会などのイベント型会議向け。

(3) Arkadin DataNow:Web 経由で会議資料を共有するサービス。プレゼンテーションの資料を参加者と共有し会議を行える Web 会議サービス。ソフトウェアのデモンストレーションなどが行える。



Arkadin DataNow-Web 会議サービス

「当社の電話会議はより簡単にすぐ開始でき、使いやすい豊富で便利な機能が沢山ある。カスタマーサービスも充実している。また、Web 会議については、独自に開発した。音声とデータ共有をシリンクしており、他社の同様なシステムよりも使い勝手のよいシステムになっている。」(アルカディン・ジャパン 代表取締役 田中羊二氏)

田中氏は、昨年 12 月までは、同じ電話会議サービスを提供しているプレミアカンファレンシング株式会社(日本法

人、本社は米国)の代表取締役を務めていた。アルカディンは、もともとプレミアカンファレンシングで電話会議サービスに従事していた社員が何人か集まって設立された会社だという。そこに田中氏も参画し、日本法人の設立、代表取締役就任した。「今までの経験からよりよい電話会議のサービスを提供したいという気持ちからアルカディンの日本ビジネスの立ち上げに参画した。」(同 田中羊二氏)

アルカディンの利用ユーザーは、金融、メーカー、流通、薬品、部品など幅広い業界で利用されている。ユーザーは社内の営業会議やプロジェクト用の会議などの利用特色があるという。「やはり、支店や営業所など地理的に離れた拠点を持つ国内外にある企業が電話会議を多用する傾向があるのではないか。」(同 田中羊二氏)

また、営業的には、「電話会議を利用していない、理解していない企業への提案は難しいため、たとえば、テレビ会議を既に利用している企業などにアプローチしている。テレビ会議以外にも電話会議という簡単で便利なツールがあるという提案をすると理解してもらいやすい。」(同 田中羊二氏)

初期費用、月額基本料金は無い。使用した分での従量課金制となっている。ArkadinAnytime サービスの1分当たりの電話会議利用料金(1拠点あたり)は、25 円(消費税別)。オペレータ付きの会議 ArkadinEvent では、75 円となる。ArkadinData は、30 円。

利用料金以外に、電話会議のアクセス番号までの通話料は別途かかるが、同社の場合、電話会議サービス用の多地点接続装置を日本国内に設置しているため、国内の通話料でアクセス出来る。アクセス番号にダイヤルするとアナウンスの日本語か英語の選択ができる。

アクセス番号は現在東京、川崎、横浜、大阪にあるが今後アクセス番号については、ユーザーの利便性を考えてアクセス番号の方法を検討したいと考えている。

また、会議サービスの利用方法によって、参加者はフリーダイヤルでもアクセス番号にダイヤルでき、会議の主催者側に課金することも可能。国内のフリーダイヤルは、1分当たり 25 円(電話)、45 円(携帯)。また国際フリーダイヤルは、国別

によって 45 円から 95 円の料金設定となっている。

申込をすると、サービスを利用するための、主催者 PIN 番号、参加者 PIN 番号が割り当てられる。これらは電話会議を行ったり、参加したりする際に必要になる。またアクセス番号とフリーダイヤル番号も通知される。これらは郵送で、利用ユーザマニュアルと一緒に、主催者 PIN 番号、参加者 PIN 番号、アクセス番号などが印字されたプラスチックのカード(名刺サイズ)が届く。

■NTT-IT MeetingPlaza、バージョン 3.1 をリリース

NTT アイティ株式会社(神奈川県横浜市)は、8 月 15 日、同社の MeetingPlaza 電網会議室のシステムのバージョンを行い、バージョン 3.1 をリリースした。8 月 15 日午前システム更新を行った。

MeetingPlaza は、2001 年 6 月から販売開始した Web 会議システム。現在国内企業 1000 社以上に利用されている。国内の Web 会議市場ではトップ企業。ASP サービスでの提供を中心にシステム導入、また、遠隔レッスンサービス、Web コンタクトサービスなどもある。

今回機能強化された点は以下の通り。(1)MMX/SSE による画像処理の大幅高速化、従来に比べ2倍の高速化を実現、(2)仮想印刷機能の充実、紙への印刷、マウス・キーボードでのスクロール・ズーム制御、スライドショーモード、簡易インストールなどを実現、(3)範囲指定によるアプリケーション共有、(4)LDAP で管理されているユーザー情報を MP のアドレス帳に追加する機能が追加、(5)会議管理者による参加者のフレームレート制御、(6)会議参加者の通信状態をモニタできる、(7)会議予約、アドホック、管理ページの各 URL を含む画面が追加(パッケージのみ次の Revision2 でのリリース)、(8)会議室の記録・スターの各権限に対する権限認証機能が追加(パッケージのみ)。

(関連記事:CNAレポートジャパン Vol. 6 No.7 2004 年 4 月 15 日、Vol. 7 No.1 2005 年 1 月 15 日、Vol. 7 No.3 2005 年 2 月 15 日)

■岡三証券、NTT ビズリンクの「海外IPテレビ会議接続サービス」を導入

岡三証券株式会社(東京都中央区)は、今月 9 月 15 日に東京都港区虎ノ門に開設した「アジア情報館」で NTT ビズリンク株式会社(東京都千代田区)の「海外IPテレビ会議接続サービス」を利用した、東京、香港、上海のアジア金融三拠点を結ぶテレビ会議の双方向映像ネットワークを構築した。

アジア情報館のアナリストがライブで香港、上海の現地アナリストや専門家とやりとりしながら、最新のマーケット情報や時事情報をタイムリーに来館者や投資家に提供する。また、各拠点から日本向けのセミナー、中国企業によるIRセミナーなども実施する計画。

NTT ビズリンクのサービスを今回導入した理由としては、衛星放送や自社で3拠点間に専用網の設置はコスト面で難しかった。またインターネットはコスト面では、安いが安定性と信頼性に不安があった。NTT ビズリンクのサービスは安定性と高品質、自社管理が不要でありながらコスト面でも自社網構築の半分以下だったため岡三証券は、NTT ビズリンクのサービスの採用を決めた。

「フレッツIP多地点サービス」は、NTT の光回線「Bフレッツ」をアクセス回線とするIPテレビ会議による1対1、あるいは3拠点以上を接続したテレビ会議サービスで、2003年の秋から国内向けに提供開始した。またこのフレッツIP多地点サービスを海外へ展開したのが、海外IPテレビ会議接続サービス。開始は、2005 年 5 月。低コストでありながら、回線の高品質、安定性の高さ、そして運用管理が不要なフルサポートサービスとなっている。(関連記事:CNAレポートジャパン Vol. 5 No.17 2003 年 10 月 15 日、Vol. 7 No.10 2005 年 3 月 31 日)

ショートニュース項目

◆日立ハイブリットネットワーク株式会社(神奈川県横浜市)は、今年5月の本社移転を契機に、IP-PBX と同社製品である IP ビジュアルコミュニケーションシステム「NetCS series」の連携による「電話・映像・データ統合 IP コミュニケーションシス

テム」を全拠点、全社員に導入。導入規模は、IP電話端末が1,130台、映像クライアントが650台、システム導入コストは一人あたり8万円。社内コミュニケーションや進捗管理ミーティングなどに活用。「ワークスタイルの革新」をスローガンに掲げ今回の導入に至った。NetCS series は、PC向けのテレビ会議システム。

◆日立ハイブリットネットワーク株式会社(神奈川県横浜市)は、IP ビジュアルコミュニケーションシステム「NetCS series」に関連して、テレビ電話中あるいはテレビ会議中に随時任意のファイルをドラッグ&ドロップするだけで簡単に資料共有できる「データ共有クライアントソフトウェア」機能強化版を10月1日より発売。

◆トーマンサイバービジネス株式会社(東京都品川区)が毎月発行するTCB株主通信(2005年9月 Vol.23)によると、同社で開発する多地点ビデオ会議システム「Visual Nexus」の販売代理店であるアールネットコミュニケーション株式会社は、現在 Visual Nexus の ASP バージョンの開発中で、10月上旬からサービスを開始する予定とのこと。

◆株式会社 TSUTAYA STORES ホールディングス(東京都渋谷区)は、本部と各店舗間での業務連絡にインターネットテレビ会議システムを導入した。インターネットテレビ会議システムは、ジャパンメディアシステム株式会社(東京都千代田区)のインターネットテレビ会議システム「LiveOn(ライブオン)」を採用。会議システムの導入により、TSUTAYA STORES ホールディングスは、業務効率の向上、通信費・移動費の削減、社内意識の一本化を目指す。

◆株式会社東芝(東京都港区)は、多地点テレビ会議システムなどに応用が可能なリアルタイム映像合成技術を開発した。多地点会議において各参加者がそれぞれの好みに応じて多地点サーバーから配信される映像の画面分割レイアウトを簡単かつ瞬時に設定、変更できる技術。今回開発した技術は、サーバー側に新開発の「多出力映像合成処理回路」を搭載することによって実現。各参加者がPC端末のマウスを操作することで、サーバーから配信された合成映像内の分割画面レイアウトを任意に変更することがで

きる。この技術により従来では難しかった画面レイアウトの変更とPCへの負荷の軽減を両立させた。多地点テレビ会議だけでなく、遠隔教育、遠隔医療、監視システム、家庭での映像配信システムなどへの応用が可能。PC端末だけでなく携帯型情報端末への応用も見込まれる。

◆オーストリアのテレビ会議メーカーScotty 社は、台湾政府から、同社のテレビ電話「mm225 ISDN テレビ電話」の受注を受けた。台湾政府は、以前から同社のモバイルタイプのテレビ会議システムを導入している経緯がある。

◆オーストリアのテレビ会議メーカーScotty 社は、1500台規模の ISDN テレビ電話の受注が、インドの Samyuktha Consultancy and Marketing Ltd, Chennai 社からあったと発表。受注額は、120万USD(約1億2000万円)。Samyuktha 社は、インド政府関連の2つの電気通信ビジネスを担当している会社。

◆シンガポールテレコムは、2005年第一四半期より、コンシューマー向け 3G とIPテレビ電話が連携したサービスを開始したが、VoIP 系のアプリケーションソフトを開発する BroadSoft 社と、IPテレビ電話などを開発する INNOMEDIA 社の技術が活用されている。ユーザーは、3G携帯からIPテレビ電話へ、またその逆へのコールをすることができる。IPテレビ電話は、INNOMEDIAの「MTA 5531 IPテレビ電話機」が提供されている。INNOMEDIA のテレビ電話はいくつか製品種類があるが、Wi-Fi無線LAN機能やEthernetポートの他に電話回線用のポートなどが搭載されている製品もある。5インチのLCDスクリーンを搭載している。

◆イタリアのテレビ会議、音声会議メーカーのアエスラ社は、ダン アンド ブラッドストリート社(D&B)による経済的信用性評価において No.1 に格付けされる。リスク評価を元に、経済財政的に信頼性が高い企業へ格付けされる最も重要な認識のひとつ。格付けには、数値的な統計モデルと現在の財政情報(資本、収益、貯蓄)を統合した指標を使用した。

◆イタリアのテレビ会議、音声会議メーカーのアエスラ社は、H.323とSIP等に対応した、新たに「Vega X5」と「Vega X3」の2機種 of X シリーズセットトップテレビ会議システムを発表した。

従来の Vega Star などのデザインから一新した。

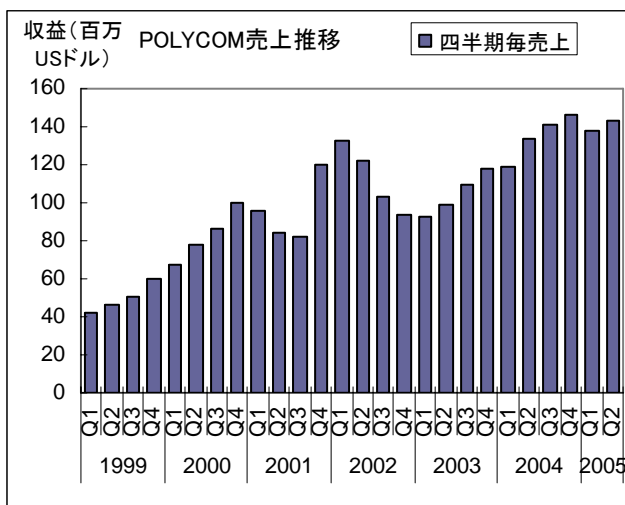


Vega X5

Vega X5 については、ISDN で 768kbps、IPで4Mbps、8拠点同時接続を可能にする内蔵 MCU。Vega X3 では、ISDN は、128kps、IPは 2Mbps まで、ユーザーインターフェイスをカスタマイズできる。両端末は3モニタをサポートし、DualStream に対応。日本では発売は未定。産業機器デザインで著名な、Paolo Villa Design Agency が今回の新製品開発に協力している。VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は国内総代理店。

2005年第二四半期業績(4月-6月期)

■ポリコム

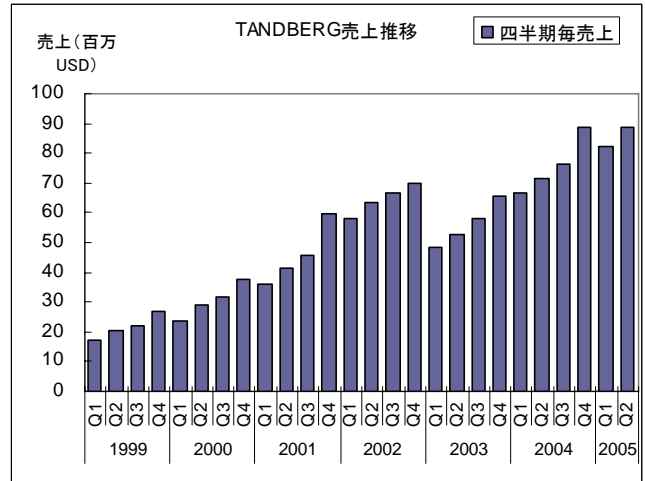


ポリコムの第二四半期の売上は、1 億 4270 万 USD。テレビ会議専用端末は、14,642 台販売。そしてデスクトップテ

レビ会議システムは、6,419 ライセンス販売した。

日本では、大手銀行に V500、VSX シリーズ、MGC を導入した。

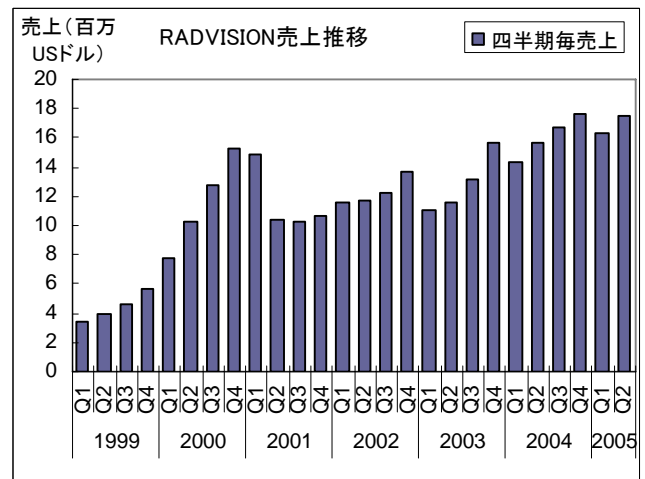
■タンバーク



タンバークの第二四半期の売上は、8,850USD。8,283 台のテレビ会議端末を販売した。

日本市場が好調に伸びており、8月に行われた第三四半期中間報告では、日本で新たな代理店と提携したと発表。会社名は、CAN レポートジャパンとしては未確認だが大手企業と思われる。

■ラドビジョン

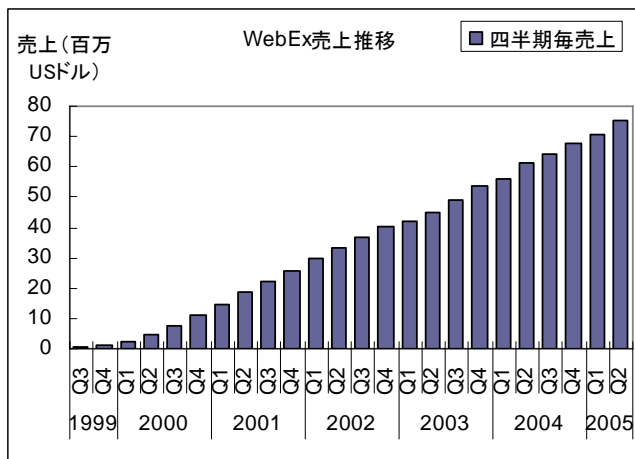


第二四半期の売上は、2004 年第四四半期より若干減となったが、1750 万 USD を計上した。

ラドビジョンは、TBU(開発)とNBU(MCU 販売等)という

2つの事業が柱で、NBU の売上は、1190 万 USD で、TBU の売上は、560 万 USD と NBU が約2倍となっているが、前年同期比での伸びとしては、NBU が5%増のところ、TBU は27%増。

■WebEx



第二四半期の WebEx の売上は、7530 万 USD。1999 年第三四半期から一四半期も減がなく右肩上がり業績を伸ばしている。

純利益は、1390 万 USD。前年同期から 35%増。

WebEx の世界マーケットでのシェアは、2004 年で 64.4%。(Frost & Sullivan データ)

2005 年第二四半期での世界全体での利用ユーザー企業顧客数は、12,200。第一四半期の 11,600 から、600 増。2003 年第三四半期の 8050 からコンスタントに増えている。

利用ユーザーを見るとIT系企業が 34%、プロフェッショナルサービス企業が、16%。(WebEx 2005 年 8 月発表資料より)

セミナー情報

国内

■探していたのはこれだった！

eラーニング教材作成の決定版:Macromedia Breeze 5 ハンズオンセミナー

日時: 2005 年 10 月 18 日(火) 13:20-14:20(A36 コース)
 2005 年 10 月 19 日(水) 11:10-12:10(B26 コース)
 場所: ウェスティンホテル大阪大塚商会ビジネスソリューションフェア 2005 会場
 主催:大塚商会
 受講料: 無料(要事前登録 定員 10 名)
 詳細:<http://www.otsuka-shokai.co.jp/event/>

■情報伝達・トレーニング・ライブ会議が 1 つになった！

Web コミュニケーションサーバの決定版:Macromedia Breeze 5 のご紹介

日時: 2005 年 10 月 18 日(火) 11:20-12:20(A25 コース)
 場所: ウェスティンホテル大阪
 大塚商会ビジネスソリューションフェア 2005 会場
 受講料: 無料(要事前登録 定員 50 名)
 詳細:<http://www.otsuka-shokai.co.jp/event/>

■第 9 回日本遠隔医療学会

日時:2005 年 10 月 22 日(土)
 場所:サンポート高松
 主催:日本遠隔医療学会事務局
 詳細:
<http://www.kms.ac.jp/~hospinfo/Medinfo/9enkaku/index.htm>

■誰でも簡単に Web コミュニケーション 新バージョン

Breeze 5 のご紹介

日時:2005 年 10 月 26 日(水)14:00-17:00(受付開始 13:30)
 場所:マクロメディア株式会社 大会議室
 主催:株式会社アイ・ティ・フロンティア
 協賛: マクロメディア株式会社
 詳細:
<http://www.ifrontier.co.jp/solution/39/865/001026.html>

編集後記

WebEx の成長は驚異的であると思います。1999 年第三四半期から一直線に右肩上がりの企業はこの業界ではあまりないのではないのでしょうか。WebExの驚異的な成長のひとつは、Web会議プロバイダーという認識というよりは、企業のビジネスプロセスを改善するソリューションを提供する企業という認識が強いということにあるのかもしれない。そうすると企業ユーザーの目線に近づきます。理解されやすいということです。

また、WebEx はマーケティングが非常にうまいという気がします。何年か前のアメリカでのスーパーボールでの多額の広告費投入、ラジオなどのメディアを使うこと、女性のコメディアン の起用、黄緑と青のカラーマーケティングを意識したような、などを見ているとそのように感じます。あの色の使い方は非常にインパクトがあります。昨年サンタクララで開催された WebEx Analyst Day の会場入り口も黄緑と青の色を塗った人の度アップの顔は忘れられません。(関連記事 CNAレポートジャパン Vol.6 No.18 2004 年 11 月 15 日号)

CNA レポート・ジャパン 編集長 橋本 啓介 k@cna.jp
 (Vol 7. No.17 2005 年 9 月 30 日号終わり)
 次号は、2005 年 10 月 15 日の発行を予定しております。